

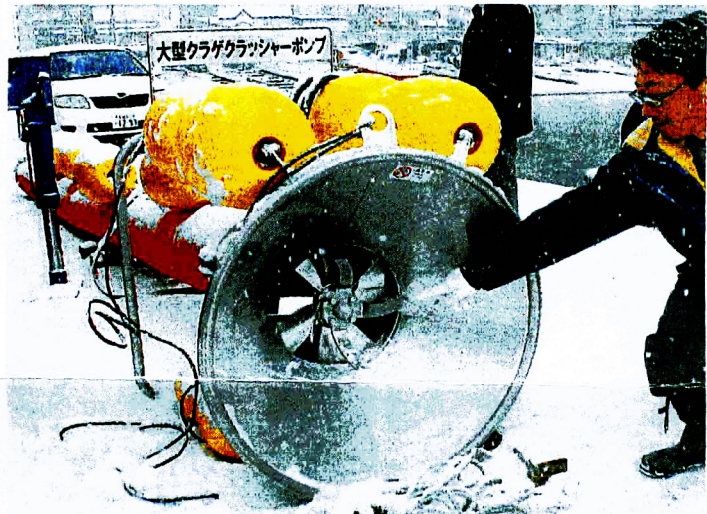
海水ごと吸収→カッターで破断 エチゼンクラゲ 駆除に新戦力

青森県漁連と県定置漁業協会は、定置網などに被害をもたらすエチゼンクラゲを駆除する装置「大型クラゲクラッシュャーポンプ」を道南鉄工(青森県大間町)と共同開発した。定置網に入り込んだクラゲを海水ごと吸い込みながらカッターで破断し、漁網の外に排出する仕組み。2日、同県深浦町でクラゲを破断する実証試験を行い、装置の効果を確認した。

青森県漁連など共同開発

「クラゲを投入してくさどに切り刻まれ、長さ50センチ。深浦町の深浦漁港。担ホースから海水とともに放出。当者の合図とともに、海面に

浮かべられた装置に向けて、県定置漁業協会の西崎義三。あらかじめ30秒四方ほどに切。会長は「昨年は本当にクラゲ断されたクラゲが投げ入れらに悩まされた。これなら駆除された。装置の先端部分に吸いの労力や時間の軽減につながる。装置の先端部分に吸い込まれたクラゲは5〜10秒ほがる。小さく刻まれるので、



開発された装置。定置網の中に浮かばせて、先端からクラゲを吸い込み切断する

ほかの漁業や漁具にも影響はない」と満足そうに語った。

装置は塩分に強いステンレス製。漁船が装備する油圧ポンプでスクリューを回転させ、海水を強力に吸い込む。処理量は毎分6・8ト。スクリューの手前にある4本のカッターが高速で回転し、クラゲを次々と破断する。海面で浮遊するクラゲを吸い込むため、海中の魚を巻き込むこともほとんどないという。

道南鉄工によると、スクリューの角度や面積によつて吸引力が変化するため、完成までに数十種類の試作を重ねた。同社は特許出願の準備も進めている。

東北各地の沿岸では昨年秋、エチゼンクラゲが大量に来遊し、定置網が壊れたり、駆除に追われて水揚げ作業が遅れたりするなど大きな被害が出た。深浦町では早々に秋サケ漁を断念した漁業者もいたという。

西崎会長は「装置は今年秋の漁に向け大きな武器になる」と期待を寄せる。大量生産が難しく、価格は1台約250万円と高額になるため、西崎会長は「漁業者らが購入する際、国の補助が受けられるよう関係機関に働き掛けてほしい」と話している。

定置網被害軽減に期待